

■人の流れを「流出」で終わらせないために

交通網の整備は、モノだけではなく、「人」の行き来も活性化させます。現在、全国的に観光に重点をおいた政策が掲げられていますが、この十勝も他の地域に負けない観光政策の充実を図り、多くの人々を呼び込まなければなりません。大都市圏、そして、アジアなど海外から十勝へという「人の流れ」を増やすこと（交流人口の増加）は、人口減少による経済の落ち込みをカバーする一つの方法ですし、人の行き来はこの地域に活力や新しい魅力を作り出します。私が観光政策に力を入れるのはこのためです。

ただ、考えてみれば、大都市圏と地方の距離が縮まるとなると、「生活基盤を大都市圏（札幌圏）に置きつつ、必要があるときだけ地元へ帰る」というライフスタイルも描きやすいことを意味します。これでは、人口流出をさらに助長することとなりますので、交通網が便利になった分、人口流出に対する取り組みもさらに強化しなければならぬのです。

人口流出の問題への対応は、「これしかない！」という切り札はなく、あらゆる方策を尽くす必要があると考えています。すでに十勝に住んでいる私たちが「この地域に住み続けよう」、あるいは十勝に住んだことのない方々が「十勝ならば住んでみたい」と思うことができる政策が必要になります。

生活に関する政策、例えば子育てがしやすい環境づくり、高齢者が安心して暮らせるための福祉政策は「ずっとここに住む」という定住の観点の中で位置づけていかなければいけないと考えています。

■雇用を守り、雇用を作る

もう一つは、十勝を一度離れた若者たちが地域に戻ってくるような工夫を、制度として整えなければなりません。前回の「ようすけ通信」2号で提案した条件付き給付型奨学金の充実もその一つですが、Uターン就職の推進にも一層力を注ぐ必要があります。

そのためには、何よりもまず、「雇用」の充実が求められます。いわゆる6次産業化、農と観光の連携、新エネルギーの研究・開発など、十勝の強みを十分に生かした新しい雇用、若者にとって魅力がある仕事を十勝の中に作り出さなければなりません。

また、こういった新しい雇用だけではなく、いまある仕事、いつの時代にも必要とされる仕事、時代の変化とともに必要度が高まっている仕事に対しても、地域経済を支える大きな役割がありますから、政治は力強く支援していかなければなりません。

「雇用を守り、雇用を作る」——これは政治に課せられた大きな仕事であり、十勝の将来を左右するものであると私は考えています。

さて、次の通信が発行される時は、私の挑戦に一つの結果が出ています。私の考える政策は、「ようすけ通信」創刊号（1月25日号）に掲載させていただいておりますが、今回はその概要を再掲載させていただきます。

チャレンジャーとして、堂々と、そして、若々しく、最後まで戦い抜く決意です。今後とも後援会の皆様のご支援のほど、宜しくお願いたします。